



# 町民文芸

## 只見短歌会 令和三年八月詠草

北国の夏は短し秋あかねか早も飛びかひ我が目うたがふ  
馬場 八智

ボーナスが出たよばあさんおみやげは食物駄目よ制限ありて  
渡部ゆき子

報道に豪雨災害痛ましきコロナ猛暑やオリンピックと  
関谷登美子

花々の咲き移ろうを見回りて時には日除けの傘を差しやる  
目黒 富子

白藤の下に植ゑ替へする我に通る人ごと声かけくるる  
新国由紀子

今年こそと帰省楽しむ娘らに我慢してねと伝ふ切なき  
渡部ヨリ子

なが病みて逝きたる従姉に哀しみの静まらずして弔辞書きつぐ  
新国 洋子

(出詠順)

## 只見俳句会 八月定例会

老鶯や山気のせまる県境  
雑木林の隙間つくつく法師かな  
礼  
半夏雨草刈り機鳴る村普請  
つく息を少しとどめや滴りて  
都

枝豆の太る夕べや匂い立つ  
曾孫五人我八十や盆用意  
一穂  
新松子故人と対す写経かな  
空蟬を袋いっぱい拾う子よ  
一恵

水飲むや支柱の先の赤とんぼ  
妻帰宅西瓜の出来を尋ねおり  
修一  
帰省の子岩魚を五匹釣りにけり  
停年後の夢叶いて夏野菜  
真理子

鳳仙花弾け尽くして終戦日  
戦争の果てなき星を大銀河  
幸生  
早朝に野菜を採りて友尋ね  
梅雨の朝草刈る姿に「ありがとう」  
睦子

遠き日の祖母の涙や終戦忌  
夏草や刈れども刈れども玉の汗  
信

夏草や刈れども刈れども玉の汗

